

第5学年 いきいきタイム学習活動案

場 所 図書室
児 童 男子47名 女子40名 計87名
指導者 石川修司 浅沼善智 谷村 薫

1 単元名 「フードファイター くらしの中の『食』について調べよう」

2 単元の目標

- (1) くらしの中の「食」について関心を持ち、進んで調べたり、体験したりしようとする。
(総合への関心・意欲・態度)
- (2) くらしの中の「食」についての課題を設定することができる。
(課題設定の能力)
- (3) 課題を解決するために、グループの友達と協力しながら活動することができる。
(協力・協調して活動する能力)
- (4) 計画にそって、意欲的に調べ学習に取り組むことができる。
(問題解決の能力)
- (5) 調べたり体験したりしてわかったことを自分なりの方法でまとめ、発表することができる。
(学習活動にかかわる技能・表現力)
- (6) 「食」と「食に関わる人々」に対する理解を深め、生き方を考えることができる。
(自己の生き方を考える能力)

3 単元について

(1) 設定の理由

本単元は、「ライスファイター 私たちの稲を育てよう」を個人で活動し、「グリーンファイター 自然の中で活動しよう」をグループで活動したあとの3番目の単元である。そこで、本単元は、今まで学んだことを生かしながら、グループでの活動を進めていく上で以下のことをおさえて指導していきたい。

- ・ 郷土料理や地場産品などから「食」を追究することを通して自分たちの食生活の在り方や矢巾町の良さに気付くこと。
- ・ 一人一人のアイデアを話し合う活動を通してグループの良さを味わうこと。
- ・ 校外に出て調べ、資料を集めたり体験したりする活動を通して、人とのかかわりを大切にすること。
- ・ 自分の考えを発信する楽しさを味わうこと。

くらしの中の「食」について調べる本単元は、社会科で学習したことをもとに、自分たちの「食生活」を見つめ直したり、「食料」や「食」についてさらに深く調べたりできるだけでなく、食料生産の仕組みや環境、外国の食糧事情にまで児童の興味関心にあわせて広がりを持たせることのできる単元である。社会科の中では時数の関係で十分に追究させることができなかつた「食」についてもっと深めたり、広げたりすることをねらいとし、この単元を設定した。自分たちで決めた課題を追究していく中で、みんなで話し合いながらよりよい考えを見つけ出したり、校外へ活動の場を広げて地域の人とかかわる機会を持ったりしながら、コミュニケーション能力を高めていきたい。また、前単元で学んだ、発表の仕方や相手にわかりやすく説明する方法、資料の活用方法なども生かす場としたい。

(2) 児童について

児童は、「ライスファイター 私たちの稲を育てよう」では、課題設定・追究・発信・まとめまでの一連の活動を個人で進めることができた。次の「グリーンファイター 自然の中で活動しよう」では、学級単位でグループをつくり、「4年生にわかりやすいように発表する」という目的を持ってグループごとに発表方法を工夫しながら活動することができた。その中で、課題を追

究したり発信したりする方法は様々あることや、相手にわかってもらうための工夫の仕方について学んだ。また、みんなでアイデアを出し合いながら進めていくグループ活動の良さも理解することができた。

しかし、前单元だけでは、経験の不足から、なかなか視野が広がらずに追究の仕方や発表のアイデアが出てこなかったり、グループ内で一人一人の考えを生かせなかったりという課題が生じた。本单元でも、学級内では課題が分散され、少人数での課題解決になってしまうおそれがあり、追究・発信の活動が深まらないということが考えられる。そこで、本单元では、学級の枠をはずして、グループをつくることにより、多様な考えに対応できるようにしたい。新たにグループ構成をすることにより、学年間の関わりを持ったり、意見交流がなされ発表の多様化が図られたりすることも期待される。

また、公共の施設に自分たちだけで見学に行ったり、地域の人たちと積極的に関わりを持ったりする経験も比較的少なかったので、地域の人たちと関わりを持ち、見学やインタビューなどを通してコミュニケーションを図る場も設定したい。

(3) 指導にあたって

「つかむ」段階では、社会科との関連からふるさと料理について調べ、実際の試食体験を通して追究したいことを考えさせる。それにより、これからの活動に対する意欲につなげていきたい。また、グループ活動がスムーズに進められるように、グループづくりには各担任が十分配慮し、活動の見通しや流れがしっかりわかるような掲示物やワークシートを活用したい。

「さぐる」段階では、校外に活動の場を求め、様々な人との関わりを持てるように支援したい。また、グループで活動する良さを味わうために、話し合い活動を大切にしながらグループ活動を進めさせたい。

「まとめる」段階では、前单元で学んだ発表方法や工夫を生かして発表の準備ができるように、グループ内での意見交流の時間を確保し、収集した資料の効果的な活用の仕方などを支援していきたい。

「いかす」段階では、グループ活動のまとめをしたあと、個人のまとめもしっかりさせることで、この活動で自分が学んだことは何か、その中でこれからの生活に生かしていけることは何かを具体的に考えさせるようにしたい。そして、自分の「食生活」の在り方や今日的な課題について気づかせるとともに、ふるさとを愛する心情を育てることができると期待したい。

单元全体を通しては、国語で学んだインタビューの進め方を生かし、自分の考えを効果的に相手に伝えることができる力、話し手の意図をくみ取って聞くことができるという話す・聞く力をより高めていくようにしたい。

段階	予想される児童の活動	時間	児童の活動を支援するための手だて	評価の観点と評価計画	活動形態
つかむ	1. ふるさと料理について調べる	2	・調べ学習の見通しがもてるように具体的な指導をする。	・ふるさと料理について調べることができたか [ワークシート]	個人
	2. ふるさと料理を味わう。	2	・調べた料理の中からいくつか選び実際に料理して味わい、活動の意欲を持たせる。	・意欲を持って活動することができたか。 [観察や感想]	学年 学級
	3. 体験活動をもとに疑問点や深く調べたいことなどを話し合う	1	・食材や時代背景、社会とのかかわり、調理方法など様々な角度から意見を出させる。	・疑問点や調べたいことなどの意見を発表することができたか。 [発表]	学級
	4. 自分の課題を決めグループ分けをする。	1	・調べ方やまとめ方など見通しを持って追究できる課題を選択させる。	・自分の課題を設定することができたか。 [ワークシート]	個人
	5. グループで計画を立てる。	1	・見通しを持って計画が立てやすいようにワークシートを準備する。	・積極的に話し合いに参加し協力することができたか。 [観察]	グループ
さぐる	6. 計画に沿ってグループごとに調べ学習をする	10	・出かけるときの安全、マナーについて指導する。 ・計画の修正やさらに深めることなどのアドバイスをする。	・それぞれの計画に沿って協力しながら活動することができたか。 [観察・ワークシート]	グループ
まとめる	7. 発表会に向けて調べてきたことをまとめ、発表練習をする。	7	・発表方法や資料のまとめ方などについてアドバイスをする。 まとめ方や役割分担などグループ活動がスムーズに進むようにワークシートを準備する。 ・より効果的な発表ができるようにグループ同士の交流を図りながら練習させる。	・自分の役割を自覚し、協力して活動できたか [観察・ワークシート]	グループ
	8. 学年発表会をする。	2 本時 2/2	・発表の場を設定することにより他のグループの考えを聞いたり知ったりして様々な考えにふれることができるようにする。	・自分の役割を果たし、協力することができたか。 [観察] ・相手を意識して発表できたか。 [感想] ・良さや気づきを感じながら内容を聞き取ることができたか。 [観察]	グループ 学年
いかす	9. 活動を振り返る。	3	・活動を振り返り、自己評価させるとともに、学んだことやこれからの生活に生かしていけることを話し合い、明確にさせる。	・学んだことやこれからの生活に生かしていけることなどについてまとめることができたか [発表・ワークシート]	学年 学級 グループ 個人

5 本時の学習活動

(1) ねらい

- ・役割を明確にして、グループごとに発表したり、新しい考えを聞いたりすることができる。
- ・友達の発表を聞いて、自分の考えを深めることができる。

(2) 展開

段階	学 習 活 動	時間	教師の支援(＊)と評価()
つ か む	1 本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">学年発表会をしよう。</div> 2 発表の仕方と聞き方、アドバイスカードの書き方、視点を知る。	3	＊司会者がスムーズに進行できるように進行カードを準備する。 ＊発表の仕方や聞き方のポイント、アドバイスカードの書き方の約束などを確認させる。
さ ぐ る	3 発表グループのピアータイム 4 グループ発表をする。	27	＊発表グループのピアータイムを聞いて興味や意欲を持たせる。 ＊アドバイスカードを記入しながらできるだけたくさんの発表を聞くようにさせる。 相手の参考になるようなアドバイスができたか。
ま と め る	5 話し合いをする。	10	＊各グループの発表に対する意見交流を行い、お互いの良さを認め合えるようにする。 自分の考えを発表することができたか。 聞く側、発表側相互のよい点を見つけることができたか。
い か す	6 活動を振り返る。	5	＊聞き手として、発表者として、自分の活動を振り返りまとめさせる。